

パネルディスカッション3：事務ノウハウの結集が支える在宅医療の面展開

～診療に貢献する医療事務を目指して（その1：書類編）～

演題名	診療現場と事務をつなぐ情報共有シート「コスト表」のご紹介
-----	------------------------------

概要

当院は、2005年 東京都世田谷区で外来診療を開始し、2009年に在宅療養支援診療所の届出をした。現在、在宅医療部は、常勤医4名、非常勤医5名、看護師6名、薬剤師1名、事務4名とドライバーという体制で、世田谷区在住の患者様250名に対して訪問診療を行っている。

訪問診療開始当初は、様々な問題が発生した。その一つが診療報酬の算定についてであった。当初、事務スタッフは外来との兼務で、在宅医療の診療報酬の知識もほとんど無かった。また、臨時往診等で診療チームの帰院時間が遅くなつて、事務と顔を合わせないことも多かつたため、事務は正確な診療内容を把握できず、診療報酬の算定漏れが頻発していた。その対策として作られたのが「コスト表」と呼んでいるA4サイズ1枚の情報共有シートである。

コスト表には、診療日時、管理料、病態、書類作成、検査・処置等、使用医材など診療報酬算定に必要な情報の記載欄がある。基本的には同行した看護師が1回の診療ごとに1枚作成するが、丸・チェック・簡単な記入によって、移動中の30秒程度で作成できるので、時間的な負担はからない。事務スタッフは、これによって診療録から読み取れない診療内容について正確に把握することができ、算定を間違えずに行えるようになった。

これまでに数回の改訂を経て、現在使用されているシートでは、患者重症度、処方箋発行、次回訪問日など、診療報酬以外の情報についても伝達できるようになっている。また、教育的な効果もある。シートには在宅医療に関する基本的な診療点数がほとんど記載されているので、医師や看護師は日々の作成によって、在宅医療の診療報酬についてのおおまかな知識を習得することができている。このようにコスト表は、今ではクリニックの業務フローに欠かせないツールとなっている。

患者というアウェイで行われる在宅医療を、チームで支えていくためには、“効率的に情報共有する仕組み”が重要である。コスト表によって、診療現場に負担をかけることなく、事務が正確な診療報酬を算定するための情報共有をすることができた。しかし、仕組みやルールを多用するのは、逆に非効率になる可能性があるので、真に情報共有が必要な情報を見極め、全体の業務フローにあわせて、最適な運用を選択する必要がある。